

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 専大卒・早大院修了 4 期目現職(印西市・栄町選挙区)

栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

県指名競争入札で疑問の声

「地元業者がはずされている」

県が工事を進める長門川整備事業。建設に先立って行われる測量調査業務において、地元業者が指名業者を選定されないケースが不自然に多いことに、疑問の声が上がっています。

●指名業者9者中、地元業者は2者のみ
指名競争入札(以下、指名入札)とは、発注者が予め選定した業者間で競争入札を行う方法の事です。地元業者は現場に関する知識等を有している事、落札により地元経済の活性化に寄与する事から、県の指名業者選定基準にも「当該工事に対する地理的条件に留意する」と定められています。

問題となっているのは、印西市と栄町との間を流れる長門川の整備事業。県発注の測量業務の指名入札では指名業者の選定が不自然で、「地元業者がはずされている」との声が上がっています。

開 札 調 査				
入札結果は下記のとおりです。				
1. 入札執行年月日	令和 4 年 5 月 20 日			
2. 工 事 等 の 名 称	広域河川改修事業(長門川用地測量その1)			
3. 工 事 等 の 箇 所	一宮川(印西市栄町・安食町) 測量(測量1区画)			
4. 落 札 者	地域外業者			
5. 落 札 価 格	28,050,000 円			
6. 予 定 価 格	28,732,000 円			
7. 課 金 基 準 価 格	22,957,000 円			

入札者	入札希望金額	1 回	2 回	落 札
地域外業者	25,500,000 円			
地元業者	25,700,000 円			
地域外業者	25,750,000 円			
地域外業者	26,000,000 円			
地域外業者	26,000,000 円			
地域外業者	26,100,000 円			
地元業者	26,100,000 円			
地域外業者	26,110,000 円			
地域外業者	26,300,000 円			

入札書記載金額は、入札者が見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額である。

長門川用地測量その1の開札調査

例えば、令和4年に行った指名入札「長門川用地測量その1」は、地権者との接触が必要となる業務であるため特に地元業者を優先すべきところ、指名業者9者のうち地元業者はわずか2者。結果、地域外となる大網白里市内の業者が落札するに至っていました。

●地元業者の落札率わずか42.8%
取り寄せた開札調査を精査したところ、令和2年から5年までに実施された、長門川整備事業に関する測量調査の指名入札は19件。そのうちドロシーを用いる特殊な測量業務など地元業者で対応できないものを除いた14件について、地元業者(佐倉市、白井市、印西市から銚子市までの北東地区の業者)が落札したのはわずか6件(42%)。指名業者のべ112者のうち地元業者は65者であり、その割合は58%にとどまっています。

指名入札 長門川と一宮川の比較 (用地測量など地元業者が担うべき業務について)

年度	地元業者の落札率	指名業者に占める地元業者の割合
長門川整備事業	42.8% (6/14)	58.0% (65/112)
一宮川整備事業	100% (30/30)	97.4% (226/232)

※長門川はR2～5年、一宮川はR4～5年

安食・小林・木下駅など 3/12 より無人駅化

●安食駅、下総松崎駅 券売機が全日稼働に

いわちゃんポスト秋号にてお伝えしていた、成田線各駅へのお客様サポートコールシステムの導入。同システムは、きっぷや改札口を通ることができない等の問い合わせに、インターホンを通してオペレーターが対応するというものです。

安食駅や下総松崎駅では、駅員不在となる朝夕の時間帯に自動券売機が停止し、きっぷの精算や Suica のチャージができなくなる等の不便を強いられてきたところ。JR 東日本は2/1、システム導入の3/12より駅員不在の時間帯においても、自動券売機を稼働する等の変更を発表しています。

●「駅係員が巡回」も事実上の無人駅化

一方で問題となるのが、駅員の配置状況です。現在は安食駅が9:20～16:10、小林駅では6:00～終電までの時間帯に駅員が配置されているところですが、3/12以降は「駅係員が木下駅、小林駅、安食駅、下総松崎駅を巡回する」

とのこと。「巡回」とは曖昧な表現でわかりづらいところですが、「自動券売機の売上を締めるために、一日一回ほど各駅を回る」というのが実態です。つまり、3/12からは安食駅、小林駅、木下駅、下総松崎駅は事実上の無人駅になるわけです。

●日々利用する住民には大きな改善ですが

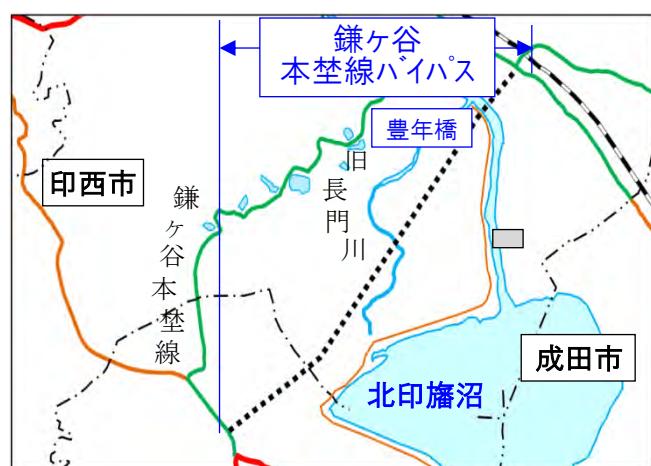
通勤などで日々駅を利用している住民にとっては、自動券売機の全日稼働化で利便性が大きく改善。一方で、無人駅化は地域の移住・定住政策に水を差しかねない問題です。3/12以降の状況を注視しながら、地元自治体らとともに必要な要望活動を行っていきたいと思います。



参考までに、千葉県茂原市などを流れる一宮川の改修工事では、同様に地域外業者に頼らざるを得ないケースを除いた30件(令和4～5年)のすべてを地元業者が落札。指名業者のべ232者のうち地元業者は226者(97%)とその差は歴然です。

●業者選定基準の明確化とその公表を
原因の一つは、指名に関する基準が曖昧であること。「地理的条件に留意する」だけでなく、「何き以内の事業者とする」と明記するなどして、恣意的な運用が入り込む余地をなくする必要があります。指名入札における業者選定基準の明確化とその公表等、制度の改善を強く求めてまいります。

県道鎌ヶ谷本埜線バイパス 3月27日頃開通の見通し



●開通式典後に一般車の通行が可能に

県道鎌ヶ谷本埜線バイパスは、印西市・印旛日本医大（いには野）地区～栄町・安食間の4.5kmを結ぶ新設道路。開通により、千葉ニュータウン地区から成田空港までのアクセスが向上するほか、栄町としても、北総線各駅や地域の拠点病院である日医大千葉北総病院までの時間短縮が実現。通勤・通学の利便性向上、物流機能の充実などが期待されてきました。

これまで旧長門川橋の架橋工事における軟弱地盤により開通時期の延期が続いてきた中、昨年4月に架橋本体工事が終了。一部区間の舗装や交通標識、表示等の整備を行い、ようやく3月27日頃の開通見通しとなったものです。

道路開通にあたっての式典は、道路管理者（今回の場合は千葉県）ではなく、地元自治体の主催にて行われるところですが、今回は栄町と印西市の共催で実施されるとのこと。開通式典の後、一般車両の通行が開始することとなります。

県道バイパス先行着工を 印西市岩戸の冠水対策

大雨の度に深刻な冠水被害に見舞われてきた、印西市岩戸の県道千葉臼井印西線。簡易的な対策が繰り返される中、同箇所の本格対策を念頭に、八千代宗像線バイパスの先行着工を求めています。

●排水工事着手も未だ道半ば

地域住民より岩井に問題が寄せられた昨年の6月。6月県議会・本会議、9月県議会・常任委員会と相次いでこの問題を取り上げ、同区間の冠水対策の実施を強く要望。問題箇所の排水対策工事に着手したものの、9月に相次いだ集中豪雨において車両が冠水するなどしており、冠水対策は未だ道半ばの状況です。

●議会にて岩戸区間の先行着工を強く要望

当該冠水被害箇所の本格対策工事に着手できない理由となっているのが、県道八千代宗像線バイパスです。

同バイパスは印西市岩戸のセブンイレブン前にて冠水被害箇所に接することとなりますが、県はバイパス工事を行う際に、バイパス道路方向に雨水を流す排水路を設置する形で本格的な冠水対策工事に着手するとしてきました。しかし、来年度より始まる同バイパス工事は岩戸側ではなく八千代市側から着手されることとなっており、現在のところ岩戸側の着工時期は未定となっているのです。

12月県議会ではこの問題を指摘しながら、「数十区間の区間でいいので」と県道八千代宗像線バイパス・岩戸区間の先行着工を強く要望。「排水先確保の可否など調査し、その検討に入りたい」との答弁を引き出すに至っています。引き続き、冠水対策工事の早期着工を求めてまいります。



「手弁当」で支えるフリースクール 公的支援に課題

学校に通いづらさを感じる子どもたちが通う、印西市内のフリースクール「ぴおねろの森」。ほぼ無償のスタッフに支えられるスクールの現状に、公的支援の遅れが浮き彫りとなっています。

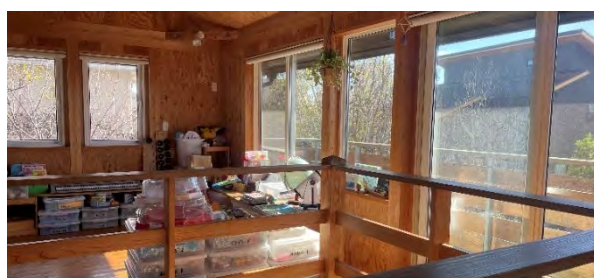
●「フリースクールなら通える」に納得

関係者である知り合いからご紹介いただき、ぴおねろの森を訪れたのは昨年11月中旬のこと。同施設は印西牧の原駅からほど近い閑静な住宅街にある一軒家であり、代表が住む自宅でもあります。

20畳はあろうかという広いリビングルームに足を踏み入ると、20名余りの子どもたちがいくつかのグループに分かれ、ゲームをしたりパソコンに向かっていたりします。陽光が降り注ぐ明るい部屋に、スタッフさんが手作りで用意する温かいご飯。学校には決してないアットホームな環境に、フリースクールなら通えるという子どもたちにも納得がいくところです。

●県条例成立も公的支援には至っておらず

さて、フリースクールは学校に通うこと



が困難な子どもたちを受けとめる場所ですが、民間施設であるため利用料は高くなりがち。文科省の調査によるとフリースクールの入会金は平均5万3千円、授業料は月額3万3千円に上ります。そんな中、ぴおねろの森の利用料は昼食代込みで一日500円のみ。全日通所（週3日×4週＝12日）でも、利用者負担額はわずか6000円です。しかし、これでは運営費をまかなうことはままならず、6人いる運営スタッフの報酬額は3000円/月（交通費支給なし）、5人いる曜日固定サポーターは交通費支給なしで無報酬。まさに「手弁当」のボランティアに支えられている状況です。

問題は公的支援の少なさ。現在、ぴおねろの森が受けているのは、社会福祉協議会

「子どもの居場所づくり応援事業」による年10万円の助成金のみ。今年3月には不登校支援に関する県条例が可決、制定されたところですが、肝心の公的支援の実現には至っておらず、他県と比べても制度の遅れは明白です。

●「不登校は親の責任」発言にはがっかり

最後になりますが、滋賀県内の市長による「フリースクールは国家の根幹を崩しかねない」「不登校は親の責任」等の発言が炎上したのは記憶に新しいところ。公私ともに子育てに向き合ってこなかったのでは？と疑いたくなりますね。フリースクールは「行き場」をなくしかけた子どもたちの救いになる、かけがえない場所。フリースクールへの公的支援の実現とともに、その理解についても働きかけてまいります。かけがえが求められるところです。



↑ぴおねろの森のHPです